

公報

<p>○太政官布達第拾八號 徵兵等務條例別冊ノ通相定ム</p> <p>右布達候事 (別冊署ス)</p> <p>明治十七年七月十九日</p>	<p>太政大臣 三條實美 陸軍總督 西郷從道 海軍總裁 川村純義</p>
<p>○海軍省編成第百拾四號</p> <p>明治七年(十二月)記三套 第七拾壹號達相府氣請自今艦船營ニ於テ下士以下ノ屢歷參 ナ調製ノ本人身上ニ關涉スル事件ハ其都度無遺漏登記シ所 轄艦艇ノ節ハ本人ト共ニ送付ス可シ此旨相達候事</p>	<p>海軍一般</p>

金石性ノ基ニモ三袋ノ「ダイナマイト」アリ已ニ其爆火モ仕
ケアリタレ也如何ノ間違ナリシヤ中途ニシテ其導火ノ消
火ノカーボンハ誠ニ幸ノ事ナリシテ前二ヶ所ノ破裂モ差シク
モカーボンノ基カノ爆風ヲ振シ數人ノ怪我人アリタルマアノ
事ニシテ左程驚クベキ事ニハアラザレニ斯ク度々乱暴人ガ
現ハレ出テ、兇暴ナ擅ニスル其原因ヲ推究スル時ハ果シテ
其原因ノ容易ナラザルヲサ發明スベシ當地ノ諸新聞紙就中
「タイムズ」新聞ノ説ニ依レバ愛爾ノ自治黨ガ其懲罰ヲ訴フ
ルニ由ナク不平ノ餘、無賴ノ徒々煽動シテ此舉ニ及ビ以テ
英人ノ魔王ヲ演シ愛人如何トモスベカラズト云テ其厭惡ノ

期カモ政治ニ關係アルニアラズ若シ乱暴人ノ心事政治上ニアラバ宜シク先ツ議院諸官廳又ヘ宰相「グラツィドストン」ノ居宅等ヲ覗フベキニ事コニコ出デズシテ彼ニ出デ閑妻ニ鉄道ヲ破壊スル杯トハ其心事政治上ニアラザルコナ證スペシ蓋シ社會ノ事物我日本國ノ如ク尙單ニシテ未タ百事多端ノ際ニ至ラザル間ハ政治ノ威權甚ク強シテ其餘力ノ達スル所甚タ廣ク全國ノ事物ハ恰モ政治ノ光明中ニ攝取セラレテ各自各色ノ光ヲ放ツテ得ズ固ヨリ社會ノ組織中ニハ各元素ノ備ラザルニ非ズト雖ニ其體極メテ微弱ニシテ人ノ耳目ニ觸ル、ニ足ラザルガ故ニ國內ノ一利一害皆其源ナ政治ニ發スルガ如クニ見ニ仮令ヒ其實ハ然ラザル事ニアモ無智凡

○七月廿日十時十一
琵琶湖疏水事業ハ
湖疏水工事議論の
雜
○清佛粉擾の結局
の近傍にて清人佛
かならざる際々突
所爲ありと見做し
要求し此要價の抵
三日龍勵發の電報

ヒ辭令書ヲ付與ス可シ此旨相達候事
一下士ナ乗退艦出入營セシムル件ハ各所管長官ノ達或ハ
其許可ヲ受ケ其艦船營ニ於テ辭令書ヲ付與スヘシ
一卒ナ乗退艦出入營セシムル件ハ其艦船營ニ於テ辭令書
ヲ付與スヘシ
一各廳服務ノ下士卒モ右ニ準ス
明治十七年七月十九日 海軍卿 川村純義
文部省達第七號

金石性ノ基ニモ三袋ノ「ダイナマイト」アリ已コ其導火モ仕
掛ケアリタレハ誠ニ幸ノ事ナリシ前ニケ所ノ破壊モセシタ
ニテ方々シハ誠ニ幸ノ事ナリシ中途ニシテ其導火ノ消
モセシタナク些カノ原因ヲ振シ數人ノ怪我人アリタルマアノ
事ニシテ左程驚クベキ事ニハアラザレニ斯ク度々乱暴人ガ
現ハレ出ア、兇暴ナ擅ニスル其原因ヲ推究スル時ハ果シテ
其原因ノ容易ナラザルツサ發明スベシ當地ノ諸新聞紙就中
「タイムズ」新聞ノ説ニ依レバ愛蘭ノ自治黨ガ其懲憤ヲ訴フ
ルニ由ナク不平ノ餘り無賴ノ徒々煽動シテ此舉ニ及ビ以テ
英人ノ魔玉ヲ潰シ愛人如何トモスベカラズト云テ其厭惡ノ
念ニ生ズルニ乘ワ忽チ分離獨立シテ自治ノ本望ヲ達セント
スル者ナリト説明シアレニ予警局外人ノ眼ヲ以テコレヲ観
ル時ハ尙コレヨリモ一層深キ原因アルヲ知ルベシ此度ノ
乱暴人モ或ハ愛人ナラン又其乱暴人ノ心事ハ愛國ノ自立チ
謀ル爲メナラント雖ニコレハ唯此事ニ近因ニシテ別ニ又遠
ニアラベシ予警ガ所見ニテハ此乱暴人ハ現今社會全般ノ仕
ナリ政治ノ不善ニ對シテ不平ヲ抱クニアラズ社會全般ノ仕

朝カモ政治ニ關係アルニアラズ若シ乱暴人ノ心事政治上ニアラバ宜シク先ツ議院諸官廳又ハ宰相「グラツドストン」ノ居宅等ヲ覗フベキニ事コニ出アシシテ彼ニ出テ閨密ニ鉄道ヲ破壊スル杯トハ其心事政治上ニアラザルヲチ證スペシ蓋シ社會ノ事物我日本國ノ如ク尙單一ニシテ未タ百事多端ノ際ニ至ラザル間ハ政治ノ威權甚ク強クシテ其餘力ノ達スル所甚ダ廣ク全國ノ事物ハ恰モ政治ノ光明中ニ攝取セラレテ各自各色ノ光ヲ放ツチ得ズ固ヨリ社會ノ組織中ニハ各元素ノ備ラザルニ非ズト雖ニ其體極メテ微弱ニシテ人ノ耳目ニ觸ルニ足ラザルガ故ニ國內ノ一利一害皆其源ニ政治ニ發スルカ如クニ見エ仮令ヒ其實ハ然ラザル事ニアモ無智凡庸ノ眼ニ映スル所ハ唯政治ノミアルモノ、如ク其妄想ノ甚シキニ至テハ天事人事ヲ混同シテ商賣不景氣モ政治ノ故ナリ、米作不出來モ政治ノタメナリ、養蠶ノ不作、天氣ノ不時候マデモ政治ノ致ス所ナリトテ之ヲ信シテ疑ハザル者アリ斯ク社會全般ノ事物ヲ舉ケテ之ヲ政治ノ得失ニ歸スルガ故ニ一利一害ノ到來スル毎ニ綠ナキ事ニテモ心中先ツ政府ノ證スルニ足ル可シ、之ニ又レテ當英國ノ如キハ社會ノ事カ非ズ曾テ我國ニ見タル暗殺者ノ心事運動ヲ察シテモ之ヲ

○七月廿日十時十一
琵琶湖疏水議案ハ
湖疏水工事議案の
題を云掛け支那人
を占領しる上にて
那人の與し易きを知
るに足りざれど
求ム認モる爲め支
人所發の報ヨ巴里
三日龍勤發の電報
かならざる際々突
所爲ありと見做し
の近傍にて清人佛
雜

六月迄ニ差出スヘン此旨相達候事
但本文圖書目錄ハ學科ニ據リ分類シ書名著譯者ノ氏名出
版ノ年月及部冊數等ヲ記載シタル斜引目錄ノ儀ト可心得
候事

明治十七年七月十九日 文部省 大木喬任
東京府達丙第百十五號

小笠原島東京府出張所職制章程下款ヘ左ノ一項追加候條爲
心得此旨相達候事

郡區役所

企石性ノ基ニモ三袋ノ「ダイナマイト」アリ已ニ其導火モ仕
掛ケアリタレハ如何ノ間速ナリシヤ中途ニシテ其導火ノ消
えテカツシハ滅ニ至ノ事ナリシヤ前ニヶ所ノ破裂モ差シク
モはシテナシ甚カノ原因ヲ探シ數人ノ怪我人アリタルマアノ
現ハレ出デ、兇暴ナ擅ニスル其原因ヲ推究スル時ハ果シテ
其原因ノ容易ナラザルヲハ證明スベニ當地ノ諸新聞紙就中
「タイムズ」新聞ノ説ニ依レバ愛蘭ノ自治黨ガ其懲憤ヲ訴フ
ルニ由ナク不平ノ餘リ無賴ノ徒ヲ煽動シテ此舉ニ及ビ以テ
英人ノ麿玉ヲ演シ愛人如何トモスベカラズト云テ其厭惡ノ
念ニ生ズルニ乘シ忽チ分離獨立シテ自治ノ本望ヲ達セント
スル者ナリト説明シアレニ予輩局外人ノ眼ヲ以テコレヲ視
ル時ハ尙コレヨリモ一層深キ原因アルヲ知ルベシ此度ノ
謀ル爲メナラント雖ニコレハ唯此事ニ近因ニシテ別ニ又遠
因アルベシ予輩ガ所見ニテハ此亂暴人ハ現今社會全般ノ仕
組不公平ナルガ故ニコレニ對シテ不平ヲ抱ク者ナリ當英國
ノ施政嚴肅ナフザルニアラズ議院多數ノ壓制ハ獨裁政府ノ
ナリ政治ノ不善ニ對シテ不平ヲ抱クニアラズ社會全般ノ仕
組ニ過グル者アリト雖ニ社會ノ壓制ハ尙コレヨリモ甚シ
キ者アリ凡ワ世ニ壓制ノ種類多シト雖ニ富強ノ貧弱ヲ壓制
スルヨリ甚シキ者ハアラク政治ノ壓制ハ人爲ノ壓制ナレバ
又人爲ヲ以テコレニ抗シ人爲ナ以テコレヲ正スノ法アリト
雖ニ社會全般ノ壓制ハ其狀恰モ天然ノ壓制ノ如ク誰ヲ目的
トシテ訴ヘン様モナクコレ如何トモスベカラズ國運漸ク
進歩シテ社會ノ事物繁多ナル時ハ貧富ノ差等日一日ヨリモ
甚シク富ハ貧富ニシテ貧ハ貧貧ナリ貧富ト胡闘トハ毎ニ相

朝カモ政治ニ關係アルニアラズ若シ乱暴人ノ心事政治上ニ
アラバ宜シク先ツ議院諸官廳又ハ宰相「グラッドストン」ノ
居宅等ヲ覗フベキニ事コニコ出アズシテ彼ニ出テ閨密ニ鉄
道ヲ破壊スル杯トハ其心事政治上ニアラザルコトヲ證スペシ
蓋シ社會ノ事物我日本國ノ如ク尙單一ニシテ未タ百事多端
ノ際ニ至ラザル間ハ政治ノ威權甚ク強クシテ其餘力ノ達ス
ル所甚ダ廣ク全國ノ事物ハ恰モ政治ノ光明中ニ攝取セラレ
テ各自各色ノ光ヲ放ツテ得ズ固ヨリ社會ノ組織中ニハ各元
素ノ備ラザルニ非ズト雖ニ其體極メテ微弱ニシテ人ノ耳目
ニ觸ル、ニ足ラザルガ故ニ國內ノ一利一害皆其源ニ政治ニ
發スルガ如クニ見エ仮令ヒ其實ハ然ラザル事ニアモ無智凡
庸ノ眼ニ映スル所ハ唯政治ノミアルモノ、如ク其妄想ノ甚
シキニ至テハ天事人事ヲ混同シテ商賣不景氣モ政治ノ故ナ
リ、未作不出來モ政治ノタメナリ、養蠶ノ不作、天氣ノ不時
候マデモ政治ノ致ス所ナリトテ之ニ信シテ疑ハザル者アリ
斯ク社會全般ノ事物ヲ擧ケテ之ヲ政治ノ得失ニ歸スルガ故
ニ一利一害ノ到來スル毎ニ綠ナキ事ニテモ心中先ツ政府ノ
感ナ起シ時トシテハ執權者ヲ怨望シテ匪擧ナ企ルモノナキ
ニ非ズ曾テ我國ニ見タル暗殺者ノ心事運動ヲ察シテモ之ヲ
證スルニ足ル可シ、之ニ反シテ當英國ノ如キハ社會ノ事物
頗ル繁多ニシテ諸元素ノ運動極メテ活潑ナルガ故ニ改權難
肅ナラザルニアラズ施政壓制ナラザルニアラズト雖ニ此政
權ハ唯政治上ニ止マリ敢テ其力ヲ社會ノ仕組上ニ逞ウスル
トナシ况ヤ此政權ヲ以テ社會全般ヲ制御スルナヤ到底能ハ
ザル所ナリ政治ハ唯社會組織中ノ一元素トシテ他ノ諸元素
セラル、程ノ者ナレバ英人ハ政權ナ度外ニ措ケ之ヲ顧ミザ
ル者ノ如レ故ニ所謂壓制トハ政治ノ壓制ニアラズシテ社會
ノ壓制ナリ而シテ其社會ノ組織未タ貧弱人ノ自由ヲ許サム

○清佛紛擾の結局
の近傍にて清人佛
かならざる際は突
所爲ありと見做し
要求し此要價の抵
三日龍勸發の電報
同所發の報より巴里
今暫く後報に從ふ
そ以て運動より佛
求ふ應する爲り支
し來れり右之何れ
知るに足らずされど
那人の與し易きを好
題を云掛け支那人
を占領しる上にて
吳れんとの大胆政
ハ斯く切迫あれば必
るを見るに至るウチ
すして忽ち青天より
たる膝を再び伸べて
うの二つより在るが故
たれ共今日迄は未わ
り達したる電報を自
は断然佛國の要價が
又英米支那の軍艦は

明治十七年七月十九日 東京府知事芳川謹正代理
東京府大書記官雲林綱男
第二十九條 賭博犯ヲ處分スル事
○警視廳告示第五號
今般石川縣ニ於テ日本形船舶出入港ノ節ハ所轄警察署等ヘ
爲届出候ニ付警察上取締ノ爲メ臨時船中乗組人等ヲ査定ス
ル儀モ可有之旨申起候條此旨心得ヘシ
右告示候事

金石性ノ基ニモ三袋ノ「ダイナマイト」アリ已ニ其爆火モ仕
カケアリタレハ如何ノ間速ナリシヤ中途ニシテ其導火モ消
止スカヨシハ誠ニ幸ノ事ナリシテ前二ヶ所ノ破裂モ差シク
モ少々ナシ甚オノ原因ヲ損シ數人ノ怪我人アリタルマアノ
現ハレ出テ、兇暴ヲ擅ニスル其原因ヲ推究スル時ハ果シテ
其原因ノ容易ナラザルヲツツ説明スベシ當地ノ諸新聞紙就中
「タイムズ」新聞ノ説ニ依レバ愛蘭ノ自治黨ガ其懲債ヲ訴フ
ルニ由ナク不平ノ餘リ無頼ノ徒々煽動シテ此舉ニ及ビ以テ
英人ノ魔王ナ演シ愛人如何トモスベカラズト云テ其厭惡ノ
念ナ生ズルニ乘シ忽チ分離獨立シテ自治ノ本望ヲ達セント
スル者ナリト説明シアレニ子監局外人ノ眼ナ以テコレヲ視
ル時ハ尙コレヨリモ一層深キ原因アルヲ知ルベシ此度ノ
亂暴人モ或ハ愛人ナラン又其亂暴人ノ心事ハ愛國ノ自立ナ
リ政治ノ不善ニ對シテ不平ヲ抱クニアラズ社會全般ノ仕
組ニ對スル亂暴人ニシテ政治ノ仕組ニ對スル者ニアラザル
謀ル爲メナラント雖ニコレハ唯此事ニ近因ニシテ別ニ又遠
因アルベシ予讐ガ所見ニテハ此亂暴人ハ現今社會全般ノ仕
組ニ對スル亂暴人ニシテ政治ノ仕組ニ對スル者ニアラザル
ナリ政治ノ不善ニ對シテ不平ヲ抱ク者ニアラズ社會全般ノ仕
組不公平ナルガ故ニコレニ對シテ不平ヲ抱ク者ナリ當英國
ノ施政嚴肅ナフザルニアラズ議院多數ノ壓制ハ獨裁政府ノ
壓制ニ過グ爾者アリト雖ニ社會ノ壓制ハ尙コレヨリモ甚シ
キ者アリ凡ワ世ニ壓制ノ種類多シト雖ニ富強ノ貧弱ヲ壓制
スルヨリ甚シキ者ハアラジ政治ノ壓制ハ人爲ノ壓制ナレバ
又人爲ナ以テコレニ抗シ人爲ナ以テコレナ正スノ法アリト
雖ニ社會全般ノ壓制ハ其狀恰モ天然ノ壓制ノ如ク誰ナ目的
トシテ訴ヘン様モナクコレナ如何トモスベカラズ國連斷ク
甚シク富ハ益富ニシテ貧ハ益貧ナリ貧富ト強弱トハ毎ニ相
併行スル者ナレバ富者ハ強ク貧者弱シ強ケレバ人ナ制シ
弱ケレバ人ニ制セラル是レ亦人間世界ニ免ルベカラザルノ
事實ナリ政治ノ壓制ハ其源ナ人爲ニ發シ此法律ハ某々等ノ
意ニ出テ彼ノ威儀ハ某々等ノ意ニ出アタル者ナリト悉シテ
レナ直接ニ其人ニ歸スルガ故ニ政治上ノ不平ハ其懲債ナ
個人ニ訴ヘ或ハ猪殺等ノ所業ニ出アレコアリト誰ニ社會全

期カモ政治ニ關係アルニアラズ若シ乱暴人ノ心事政治上ニアラバ宜シク先ツ議院諸官廳又ハ宰相「グラッドストン」ノ居宅等ヲ覗フベキニ事コ、ニ出アシテ彼ニ出テ閨密ニ鉄道ヲ破壊スル杯トハ其心事政治上ニアラザルコトヲ證スペシ蓋シ社會ノ事物我日本國ノ如ク尙單一ニシテ未タ百事多端ノ際ニ至フザル間ハ政治ノ威權甚ク強シテ其餘力ノ邊スル所甚ダ廣ク全國ノ事物ハ恰モ政治ノ光明中ニ攝取セラレテ各自各色ノ光ヲ放ツテ得ズ固ヨリ社會ノ組織中ニハ各元素ノ備ラザルニ非ズト雖ニ其體極メテ微弱ニシテ人ノ耳目ニ觸ル、ニ足フザルガ故ニ國內ノ一利一害皆其源ニ政治ニ發スルガ如クニ見エ仮令ヒ其實ハ然ラザル事ニアモ無智凡シキニ至テハ天事人事ヲ混同シテ商賈不景氣モ政治ノ故ナ庸ノ眼ニ映スル所ハ唯政治ノミアルモノ、如レ其妄想ノ甚シキニ至テハ天事人事ヲ混同シテ商賈不景氣モ政治ノ故ナリ、未作不出來モ政治ノタメナリ、養護ノ不作、天氣ノ不時候マデモ政治ノ致ス所ナリトテ之ヲ信シテ疑ハザル者アリ斯ク社會全般ノ事物ヲ擧ケテ之ヲ政治ノ得失ニ歸スルガ故ニ一利一害ノ到來スル毎ニ綠ナキ事コテモ心中先ツ政府ノ感ヲ起シ時トシテハ執權者ヲ怨望シテ匪擧ヲ企ルモノナキニ非ズ曾テ我國ニ見タル暗殺者ノ心事運動ヲ察シテモ之ヲ證スルニ足ル可シ、之ニ反シテ當英國ノ如キハ社會ノ事物頗ル繁多ニシテ諸元素ノ運動極メテ活潑ナルガ故ニ政權蕭ナラザルニアラズ施政壓制ナラザルニアラズト雖ニ此政權ハ唯政治上ニ止マリ敢テ其力ヲ社會ノ仕組上ニ逞ウスルザル所ナリ政治ハ唯社會組織中ノ一元素トシテ他ノ諸元素ト共ニ併行スルノミナラズ或ハ却テ他ノ諸元素ノ爲メニ制セラル、程ノ者ナレバ英人ハ政權ヲ度外ニ措テ之ヲ顧ミザルガ故ニ國內ノ富強人ハ恰モ貧弱人ノ隸政ニシテ「ダイナマイト」サレシ鉄道列車ヲ破裂スルガ如キ乱暴ノ所行モ大抵ハ皆貧富ノ爭ニ原因スル者ト知ルベシサレバ日本ノ階級シテ一身ノ不平ヲ泄ラスガ爲メニ此惡事ヲ撫ク者ナリト雖シ我國ノ亂暴人ハ政治上ノ亂暴人ニシテ西洋ノ亂暴人ハ社會者モ西洋ノ「ダイナマイト」家モ齊クコレ世ノ中ノ亂暴人コ

○清佛粉擾の結局
の近傍にて清人佛
かならざる際、突
所爲ありと見做し
要求し此要價の抵
三日龍勦發の電報
同所發の報、巴型
を以て運動より佛
求ふ應そる爲め支
し來れり右、何れ
知るに足りざれど
那人の與し易きを
題を云掛け支那人
を占領し、上にて
ハ斯く切迫あれば
るを見るに至る。又
たる膝を再び伸べて
うの二つよ在るが故
たれ共今日迄は未お
り達したる電報をも
は断然佛國の要價と
又從來支那の軍艦に
しなりと云ひ又支那
爲し佛國の艦隊は、
前後より同所より運
れを信實なりと定め
方付き合ひとの風説
し政府の決議を報

明治十七年七月十九日 警視總監 大迫貞清 時事新報

金石性ノ基ニモ三袋ノ「ダイナマイト」アリ已ニ其爆火モ仕
機ケアリタレハ如何ノ間違ナリシヤ中途ニシテ其導火モ消
止テカラシハ滅ニ至ノ事ナリシヤ前ニケ所ノ破裂モ差シク
モはナシ甚カノ原因ヲ撰シ數人ノ怪我人アリタルマアノ
事ニシテ左程驚クベキ事ニハアラザレニ斯ク度々乱暴人ガ
現ハレ出デ、兇暴ナ擅ニスル其原因ヲ推究スル時ハ果シテ
其原因ノ容易ナラズトシ發明スベシ當地ノ諸新聞紙就中
「タイムズ」新聞ノ説ニ依レバ愛蘭ノ自治黨ガ其懲債ヲ訴フ
ルニ由ナク不平ノ餘り無賴ノ徒々煽動シテ此舉ニ及ビ以テ
英人ノ塵玉ヲ演シ愛人如何トモスベカラズト云テ其厭惡ノ
念ニ生ズルニ乘シ忽チ分離獨立シテ自治ノ本望ヲ達セント
スル者ナリト説明シアレニ子監局外人ノ眼ヲ以テコレヲ視
ル時ハ尙コレヨリモ一層深キ原因アルコナ知ルベシ此度ノ
亂暴人モ或ハ愛人ナラン又其亂暴人ノ心事ハ愛國ノ自立ナ
謀ル爲メナラント雖ニコレハ唯此事ニ近因ニシテ別ニ又遠
因アルベシ予警ガ所見ニテハ此亂暴人ハ現今社會全般ノ仕
組不公平ナルガ故ニコレニ對シテ不平ヲ抱ク者ナリ當英國
ノ施政嚴肅ナフザルニアラズ議院多數ノ壓制ハ獨裁政府ノ
壓制ニ過グル者アリト雖ニ社會ノ壓制ハ尙コレヨリモ甚シ
キ者アリ凡ワ世ニ壓制ノ種類多シト雖ニ富強ノ貧弱ニ壓制
スルヨリ甚シキ者ハアラズ政治ノ壓制ハ人爲ノ壓制ナレバ
又人爲ヲ以テコレニ抗シ人爲ナ以テコレヲ正スノ法アリト
雖ニ社會全般ノ壓制ハ其狀恰モ天然ノ壓制ノ如ク誰チ目的
トシテ訴ヘン様モナクコレニ如何トモスベカラズ國運漸ク
進歩テ社會ノ事物繁多ナル時ハ貧富ノ差等日一日ヨリモ
甚シク富ハ益富ニシテ貧ハ益貧ナリ貧富ト強弱トハ毎ニ相
併行スル者ナレバ富者ハ強ク貧者弱シ強ケレバ人ヲ制シ
弱ケレバ人ニ制セラル是レ亦人間世界ニ免ルベカラザルノ
事實ナリ政治ノ壓制ハ其源ナ人爲ニ發シ此法律ハ某々等ノ
意ニ出テ彼ノ威儀ハ某々等ノ意ニ出アタル者ナリト悉クコ
レヲ直接ニ其人ニ歸スルが故ニ政治上ノ不平ハ其懲債チ一
個人ニ訴ヘ或ハ暗殺等ノ所業ニ出ヅルヲアリト雖ニ社會全
般ノ壓制ハ一概ニコレナ人爲ニ歸スベカラズ恰モ天然ノ法
則ニ由テ其壓制ヲ擅ニスルノ趣アルモノナレバ有力ノ一個
人ナ幾人幾十人除キタリトテ速カニ其弊ナ矯ムベキニモア
ラズ大腹高樓ナ視テハ富者ノ奢侈ヲ憤リ鐵道工業ノ盛ナル
ナ視テハ貧者ノ微弱ナルヲ嘆キ天下滿目事々物々皆壓制ノ

期カモ政治ニ關係アルニアラズ若シ乱暴人ノ心事政治上ニアラバ宜シク先ツ議院諸官廳又ニ宰相「グラツドストン」ノ居宅等ヲ覗フベキニ事コヘコ出テシテ彼ニ出テ閑妻ニ鉄道ヲ破壊スル杯トハ其心事政治上ニアラザルトナ證スペシ蓋シ社會ノ事物我日本國ノ如ク尙單ニシテ未タ百事多端ノ理ニ至ラザル間ハ政治ノ威權甚ク強シテ其餘力ノ達スル所甚タ廣ク全國ノ事物ハ恰モ政治ノ光明中ニ攝取セラレテ各自各色ノ光ヲ放ツサ得テ固ヨリ社會ノ組織中ニハ各元素ノ備ラザルニ非スト雖ニ其體極メテ微弱ニシテ人ノ耳目ニ觸ル、ニ足ラザルガ故ニ國內ノ一利一害皆其源ニ政治ニ發スルガ如クニ見ニ仮令ヒ其實ハ然ラザル事ニテモ無智凡庸ノ眼ニ映スル所ハ唯政治ノミアルモノ、如ク其妄想ノ甚シキニ至テハ天事人事ヲ混同シテ商賈不景氣モ政治ノ故ナリ、未作不出來モ政治ノタメナリ、義理ノ不作、天氣ノ不時侯マデモ政治ノ致ス所ナリトテ之ニ信ケテ疑ハザル者アリ斯ク社會全般ノ事物ヲ舉ケテ之ヲ政治ノ得失ニ歸スルガ故ニ一利一害ノ到來スル毎ニ綠ナキ事ニテモ心中先ツ政府ノ感ナ起シ時トシテハ執權者ニ怨望シテ匪軍ヲ企ムノナキニ非ズ曾テ我國ニ見タル暗殺者ノ心事運動ヲ察シテモ之ヲ證スルニ足ル可シ、之ニ反シテ當英國ノ如キハ社會ノ事物頗ル繁多ニシテ諸元素ノ運動極メテ活潑ナルガ故ニ政權蕭ナラザルニアラズ施政壓制ナラザルニアラズト雖ニ此政權ハ唯政治上ニ止マリ敢テ其力ナ社会ノ仕組上ニ逞ウスル「ナシ」況ヤ此政權ヲ以テ社會全般ヲ制御スルチャ到底能ハザル所ナリ政治ハ唯社會組織中ノ一元素トシテ他ノ諸元素ト共ニ併行スルノミナラズ成ハ却テ他ノ諸元素ノ爲メニ制セラル、程ノ者ナレバ英人ハ政權ナ度外ニ措テ之ニテ顧ミザル者ノ如ク故ニ所謂壓制トハ政治ノ壓制ニアラズシテ社會ノ壓制ナリ而シテ其社會ノ組織未ク貧弱人ノ自由ヲ許サバルガ故ニ國內ノ富強人ハ恰モ貧弱人ノ謀政ニシテ「ダイナマイト」ヲ發シ鉄道列車ヲ破裂スルガ如キ乱暴ノ所行モ大者モ西洋ノ「ダイナマイト」家モ齊クコレ世ノ中ノ乱暴人ニシテ一身ノ不平ヲ泄テスガ爲メニ此惡事ヲ撃ク者ナリト雖ニ我國ノ乱暴人ハ政治上ノ乱暴人ニシテ西洋ノ乱暴人ハ社會中ノ乱暴人ナリ暗殺者ハ一個人チ以テ敵トナシ「ダイナマイト」家ハ社會ノ仕組ヲ以テ謀トスコレナ約言スレバ我國ニ在ナハ治者ト被治者ト政治上ノ學論盤ナレヒ英國ハ早

○清佛紛擾の結局
の近傍にて清人佛
かならざる際々突
所爲ありと見做して
要求し此要債の抵
三日龍勸發の電報
同所發の報は已里
今暫く後報に從ふ
を以て龍勸より佛
題と云掛け支那人
求ふ應する爲り支
し來れり右之何れ
知るに足らずされど
那人の與し易きを知
れ共今日迄は未だ
るを見るに至るゝま
すして忽ち青天から
り達したる電報を目
は斷然佛國の要債ふ
方付さうとの風聞
爲し佛國の艦隊は直
前後より所より廻り
又從來支那の軍艦は
は政府が支那を興へた
れを其後ならでて確
れを信實なりと定む
れて其後ならでて確
従ひ報道を怠らざる
英國が東京事件に付
力を盡して北京改定
○英佛の約束 五月